

（午後2時30分 再開）

○議長（中本正人君）休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番11、4番 今城君。

〔4番（今城敏仁君）登壇〕

○4番（今城敏仁君）皆さん、こんにちは。ちょうど一番眠たいときですので、眠たい方は寝ていただいても結構でございます。

きのう、サッカーを見てございました。なでしこジャパンがリオオリンピックに行けないということで、ちょっと残念なんですけども、澤選手1人がおれへんというだけで、あれだけチームプレーとして、僕もサッカーをやっていたので、やっぱりコントロールタワーがおれへんとかんなどというふうに感じたわけでございます。

ここ4日ほどええ天気が続きまして、先週の土曜日ですか、河南道路を走っておりますと、ハングライダーが、あれは1機、2機というんですか、3機飛んでおりました。いつも桃山の手前の竹房橋のところではたくさん飛んでいるんですけども、そこから流されたんかなと思っておったんですけども、この辺にそういうふうな飛ぶところがあるんかなと。伏原の若もの広場のほうへおりにいったように思います。僕、高所恐怖症なんで、飛べるかどうかわかりませんが、ああやって飛んで下を見た場合、どういうふうな気持ちになるんかなと。やっぱり、また人生観、世界観も変わるんかなというふうに思いました。それともう一つ、これ、尾籠な話ですけども、トイレしたったらどないするんかなと思ひまして、ああいうのもこれから勇気を出して

いっぺんやってみたいなというふうに思いました。

それでは、市当局が財政健全化計画というのを出したときに、私、昔、財政健全化計画、そういうふうな行財政改革のときに、上杉鷹山公ですね、米沢藩の。あの方の本を読んだのを思い出しまして、急遽、図書館にネットで聞き合わせしましたら、鷹山の本がそんなになくなって、すぐアマゾンで引きまして読んだわけでございます。それこそ、副市長がここで、副市長のあいさつをされたときに、「なせば成る、なさねば成らぬ、何事も、成らぬは人のなさぬなりけり」と、あれ、2年前でしたすかな、副市長。おっしゃったのは、多分、今のこの状況を考えておっしゃった言葉であろうというふうに思います。

改めて、あの本を読んでみますと、当時の米沢藩、鷹山公がやった功績ですけども、ちょっとここに書いてきたんですけども、人口増加、婚姻を増やす。育児支援、藩士の次男、三男には農村への土着を奨励したと。家と田畑を与え、3年間年貢を免除。農政を改革して、教育を進め、産業を発展させていく。藩政を立て直したと。米沢藩100年の計画を立てて、優秀人材が必要であると考えて、学問の場を創設したというふうになってございます。

本当にこれ、今の橋本市も同じようなことやと思います。大事なことは未来につながる次の世代のために、我々がせんなんことは、まさに、このようなことではないかというふうに思いました。そのときに、それこそ副市長がそのようにあいさつの中でおっしゃいましたので、もう一つ、それこそ武田信玄の言葉がございまして、「人は城、人は石垣、人は堀、

情けは見方、あだは敵なり」という戦術の方法を書かれているんですけども、これも要約しますと、個人の特徴をつかみ、彼らの才能を十分に発揮できるような集団をつくることであると。人には条理を尽くすこと。逆に、相手を恨めば、必ず反発に遭い、害意を抱くようになるというふうなことからしゅうございます。

今度、4月にまたいろいろな意味で改造があるそうでございますけれども、本当にやる気の方を引き立てていただいて、橋本市のために、せんだって10周年のときに、10年前に生まれた彼らが、私たちのメッセージという形で要望していただきました、環境に優しい、安心安全なまち、Welcome to 橋本、おもてなし、思いやりのあるまち、そして、市長がにこやかに、笑顔あふれる橋本というふうに看板を持ってございました。そのようなまちをつくるために、我々もこれから一生懸命頑張ってまいりたいと思います。

それでは、通告に従いまして、1番、(仮称)和歌山「はしもとオムレツ」プロジェクトについて。

地域資源を生かした新商品を開発するというコンセプトで、今回のプロジェクトがスタートしたとお聞きしておりますが、現在までの進捗状況と今後の展開をお聞きします。

大きい2項目目、和歌山県民歌・和歌山市歌の普及について。

新聞によりますと、県は新年度から県民運動として、県民歌の普及に取り組み、小学校卒業までに子どもたちが歌えるよう、音楽の授業で題材とする方針であると載っておりますが、橋本市としてはどのように取り組んでいかれますか。また、橋本市歌の普及についてもどのようにお考えですか。

以上の二点をお問い合わせします。

以上で、壇上からの質問を終わります。

○議長（中本正人君）4番 今城君の質問項目1、(仮称)和歌山「はしもとオムレツ」プロジェクトに対する答弁を求めます。

経済部長。

〔経済部長（笠原英治君）登壇〕

○経済部長（笠原英治君）和歌山「はしもとオムレツ」推進プロジェクトの進捗状況について、お答えします。

本市のさまざまな特産品を官民一体となり、国内外に売り出し、はしもとブランドの構築に挑むため、平成27年4月はしもとブランド推進室を設置するとともに、部内において、ブランド推進担当、商工担当、農林振興担当などが連携し、食を通じたはしもとブランドの構築のための検討会を設置し、構想の検討を行いました。この中で、橋本・高野山エリアは、開創1200年を迎えた高野山、NHK大河ドラマ「真田丸」の放映などから、人気が高まっていること、また、富有柿、巨峰、鶏卵、はたごんぼ、恋野マッシュルーム等多くの農産物を活用できること、また、市内飲食店や生産者の意識の向上と活性化が図れること、全国には、オムレツに特化したまちがないことなどを理由に、オムレツのまちとして全国発信していくことを決定しました。

また、平成27年11月には、橋本市における産地の技術、地域の農林水産品等の地域資源を活用し、食を通じた新商品の開発及びブランド化の推進をめざし、地域社会の発展、とりわけ、地域産業の振興に貢献することを目的に、株式会社ぐるなびと業務連携に関する覚書を締結し、マスコミやインターネット媒体を活用した情報発信に努めることなどを具体化しました。

平成27年11月から12月にかけて、市内飲食関係者への説明会、また、平成28年1月には意見交換会を実施し、事業協力を呼びかけま

した。平成28年2月22日、橋本市ならではの食文化の創造、発信を通じて、人とまちを結びつけるため、民間企業、農業生産者をはじめ、趣旨に賛同する方々で（仮称）和歌山「はしもとオムレツ」推進協議会を設立。その総会において、プロジェクトについての説明と意見交換等を行った上で、今後の展開について協議しました。

今後の展開についてですが、現在、賛同事業所が33店舗となり、オムレツメニューの開発が行われています。引き続き賛同事業所の募集も行っているところです。

また、来る3月29日には、第2回推進協議会を開催し、当面の取り組みはもちろんのこと、中長期的な事業計画についても協議を行います。当面の取り組みとしては、「はしもとオムレツ」プロジェクトPR方法や、「はしもとオムレツ」の定義、及び、食材調達方法の具体化、のぼりや飲食店マップの作成、紀の川橋本SUMMER BALL2016や、まっせ・はしもと、歩行者天国等での「はしもとオムレツ」PR活動などです。

また、中長期的な事業計画では、市民が気軽に参加できるオムレツコンテストの開催、保育園や小学校での給食や調理体験等でオムレツを検討できないかなど、協議する予定です。

日本記念日協会には、6月2日がオムレツの日と登録されていることから、広報6月号にて特集を掲載し、市民への周知を行っていきたくと考えています。

○議長（中本正人君）4番 今城君、再質問ありますか。

4番 今城君。

○4番（今城敏仁君）部長、ありがとうございます。

私、このオムレツのまちというのを聞いたのは、恥ずかしながらつい最近でございませ

て、12月の市長の説明用紙の中で、地方創生I型を使って事業をするというのが一番の最初やったと思うんですけども、せんだって、僕、2月22日に行きたかったんですけども、ちょっと親戚の不幸事があって行けなかったんですけども、そもそも最初のきっかけというのは、産経新聞等によりますと、市民の方からの市長への手紙から始まったというふうにお聞きしているんですけども、そのような理解でよろしゅうございますか。

○議長（中本正人君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）そのとおりでございます。橋本市の産品をもっと活用できないかという、そういうご意見がありまして、その中で生まれてきた事業でございます。

○議長（中本正人君）4番 今城君。

○4番（今城敏仁君）そうでございますか。市民の方がそうやって、橋本市を盛り上げてほしいということで、この会がスタートしたというふうに、そしたら、理解させていただきます。

そこで、正直なところ、何でオムレツなんやろうなというところなんです。お聞きしたら、養鶏業者さんが、県下の半分の生産量を誇っておるということでございますけれども、今、どれぐらいの鶏が養鶏業者にはおるんですかね。その辺、おわかりですか。

○議長（中本正人君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）市内全体で約14万1,000羽です。実は、昨年同期によると19万5,200羽ですので、約5万羽減っております。

○議長（中本正人君）4番 今城君。

○4番（今城敏仁君）伊都振興局で調べますと、その前は、22万5,000羽がありまして、そしたら、28年度で14万1,000羽という数字で理解したらよろしいんですか。

○議長（中本正人君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）そのとおりでござ

います。

○議長（中本正人君）4番 今城君。

○4番（今城敏仁君）きのうちちょっとスーパーへ行って卵の値段を調べてきたんですけども、部長、今スーパーで売っておる値段、だいたいどれくらいかおわかりですか。

○議長（中本正人君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）物価の王様と言われるぐらい卵は本当に、経年で値段が上がっていないんですけど、たしか、私、子どものときに、お好み焼きに卵を一つつけてもらったら30円したんですけど、今、結構、うちではできるだけ安い時間帯に買いに行きますんで、1パック100円というのを買って来たりしておることを聞いております。

○議長（中本正人君）4番 今城君。

○4番（今城敏仁君）そのとおりで、100円から150円、それから、餌にこだわりを持った卵ですと30円であったり、この地域の天野の卵なんかは、6個入って300円、やっちゃん広場で売っているのは300円ということで、かなり養鶏場で、昼も夜もなく産む卵と、平飼いして、それこそ、こだわった卵をつくっておるところの差というのはかなりあると思うんです。

そこで、きのう市長もおっしゃってございましたけれども、目的は橋本市の地域資源を生かして、このまちを元気にするんやというところが目的やと思うんですけども、手段として、オムレツのまちということで、今、動いておると思うんですけども、そもそもオムレツというのは、これ、調べてみますと、フランス語らしゅうございます。このオムレツ自身は、平とう言うたらフランスの卵焼きやと。我々、きょうは堺屋さんの弁当は休みで、だし巻き弁当を食べられなかったんですけども、同じような感覚で食べられておると。たまたま、だし巻き弁当ですかね、あれはおい

しゅうございます。

オムレツが有名になったのは、もともとフランスのモン・サン・ミッシェルですか、修道院がある、あそこへ巡礼する方の、彼らの空腹を満たすために、ラ・メール・プラールという、プラールおばさんという方が工夫してふわふわ卵をつくったのが、今我々が言う、ふわふわのオムレツやというふうに理解しております。

これ、実際のところ、はしもとオムレツのまちという形で、きのう、同僚議員のほうからも、がんばれのまち、また、オムレツのまちやったら、ちょっとややこしいなという話なんですけども、がんばれオムレツのまちでもええんですけども、やっぱり、業者さん等にお聞きしますと、ちょっとこれは、二、三あたったんですけども、三十数社がかかわってこれから協議会を立ち上げて頑張っていくと、頑張っていくって地域の名前を売る、また、地域に来ていただいた方に、ここで時間を過ごしていただいて、オムレツを食べていただいて、お金を落としていただくと。それはもうそのとおりで、そういうふうにやっていかなあかんのですけども、これはぐるなびさんがかかわっておるというふうに聞くんですけども、それでよろしゅうございますか。

○議長（中本正人君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）年末に業務提携いたしまして、ぐるなびとこの事業を進めていくことになっております。実は、ぐるなびの社員が橋本市在住の方でありまして、これも市長のほうにご意見をいただいて、一緒に進めていこうということになった経緯でございます。

○議長（中本正人君）4番 今城君。

○4番（今城敏仁君）そのようにお聞きしているんですけども、僕自身はこの生産業者、まず、地域資源を大事にするということで、

基本的には農業従事者のサポート、バックアップ、それから、生産できたものを地産地消で、ちょっとでもこの地域で消費していくというのが一番大事なところではなかろうかと思うんですけども、このオムレツをつくるにあたりまして、オムレツの卵は橋本市で生産されたものを使うというのが前提ということでございますか。

○議長（中本正人君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）今、協議会でその辺の決まりごとを決めていこうとしておるんですが、具体的にまだはっきり決まっておりますが、市としては、オムレツのまちにしていこうというのは、決してオムレツにこだわっておるわけではなくして、橋本市の農産物をできるだけ普及需要促進していこうという、そういう思いでやっておりますので、当然、橋本市の卵を使っていたきたいという気持ちはあります。

ただ、きのうもちょっと市長が言われたんですが、オムレツだけ食べてくれておいしいって、そういうことを考えておるんじゃないかと、各飲食店に行き、オムレツも食べて、これだけおいしいオムレツをつくるのであればほかのメニューも食べてみたいなということで、また、リピーターになって、橋本市を訪れていただけるような、そういう仕組みづくりを最終的にはつくっていく必要があるかと思っております。

○議長（中本正人君）4番 今城君。

○4番（今城敏仁君）結局は、農業関係者、地域資源を生かすというところで、オムレツから始まって、はたごぼう、マッシュルーム、その他いろいろ農産物もそこで掛け合わせて、PRしていくということによろしゅうございますか。

○議長（中本正人君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）そのとおりでござ

います。オムレツといえば、卵でくるんだもうあのイメージしかないんですけど、これからオムレツの定義をどうしていくか、協議会の中で決めてまいります。当然、オムレツの食材として、橋本市の産品をできるだけ使っていただくような、そういう取り組みも事業者の方をお願いしたいと思っております。

○議長（中本正人君）4番 今城君。

○4番（今城敏仁君）そうやっていろいろな形で、各メディア等にもPRをしていく、アプローチをかけていくというのが一番大事なことではなかろうかと思うんですけども、この質問をしようと思ってから、いろいろテレビを見ておりますと、2月29日でしたか、よくここで、はたごぼうのところに来ていただいている「ちちんぷいぷい」という番組がございますね。あの「ちちんぷいぷい」で、あそこの女子アナウンサーの方が、すごく卵が好きで、いろいろとこだわり卵のところを回っていて、ちょうど29日は和歌山の梅卵というのがありまして、そこへ行って卵料理をいただいておったと。

それから、たまたま、その明くる日かその次ですか、朝のびっくりぼんの「あさが来た」の後の有働アナウンサーの番組で、ちょうど卵料理で、ふわふわ卵のレシピをこうやってつくるんやというふうにやってございましたし、いろいろと雑誌等に出ている特集でも、オムレツのレシピ等がかなり載っております。これは、ひょっとしたら、6月2日ですか、オムレツの日にあわせていろいろとメディア、雑誌社も、そういうふうな特集を組んでおるんやと思います。

それと、生産業者の地域資源のバックアップ、協議会ができたなら、その協議会で進みますので、市としたらいろんな形でバックアップしていくというふうを考えてございませけれども、これをまた、一般の方々、市民の方々

に広めるのに、どのようなことをお考えになっておるか。お考えがあれば、お答えいただきたいんですけども。

○議長（中本正人君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）まず、飲食店の方については、今まで直接市内の飲食店を支援するような、そういった取り組みがありませんでした。今回、がんばれ！橋本応援補助金の要綱の中に、市内産品を活用した新たなメニューづくりに対して補助金を支援するって、そういう項目を設けました。ですから、このオムレツもそうなんですけど、ほかのメニューも含めて、商品開発していただけるようなメニューがあれば、申請していただければ、補助金支援させていただこうと思っております。

それと、市民に対しては、壇上でも申し上げたんですが、素人の方でもつくっていただけるようなレシピ開発によって、おいしいオムレツを食べていただける、おいしい卵料理を食べていただける、そういう取り組みをしてまいりますので、できれば、橋本市の、例えば、SUMMER BALLのイベントなんかでオムレツコンテストをしまして、市民の方にいろいろメニュー提案をいただこうかなと、そういうふうに思っておる次第でございます。

○議長（中本正人君）4番 今城君。

○4番（今城敏仁君）ありがとうございます。本当に素人の方と申しますか、一般の方のアイデアというのは、なかなかプロでは思いつかんようないいアイデアがございますので、やっぱりコンペを開いて、いろんな方から情報をいただいて、そうすることによって、また「はしもとオムレツ」のまちは、養鶏業者が県下の半分を占めておる、そういうPRにもなるかと思っておりますので、ぜひ市民の方にわかっていただきますように、コンペ等を開

いてやるのがいいんじゃないかというふうに思いますので、若い職員の方々もこの説明書を見ますと、去年の4月から始まっているんな協議をして、このような形でオムレツで売り出していこうというところで頑張ってくれていますので、ぜひ、がんばれ橋本のまちと、前畑がんばれと、オムレツもそういう意味ではこれを切り口にして、また、橋本市をPRしていただきますようお願い申し上げます、1番の項目を終わらせていただきます。

○議長（中本正人君）次に、質問項目2、和歌山県民歌・橋本市歌の普及に対する答弁を求めます。

教育長。

〔教育長（小林俊治君）登壇〕

○教育長（小林俊治君）和歌山県民歌と橋本市歌の普及についてお答えします。

和歌山県民歌は、昭和23年8月に誕生しました。このたび、次世代を担う子どもたちに県民歌を普及することにより、郷土愛を醸成する目的で、来年度から、県内の全小学校において、音楽の授業に取り入れる方針が発表され、県民歌のCDを全小学校に配付されることになりました。

次に、橋本市歌は、旧高野口町に町歌がなかったことから、橋本市・高野口合併協議会の中で、新市において定めるとされ、平成18年10月1日に、旧橋本市の市歌をもって新市の市歌とすることが定められました。作曲は野口源次郎氏、作詞は安西冬衛氏となっております。

教育委員会の取り組みとしては、学校で、市歌・県民歌を普及することは、ふるさと橋本市や和歌山県に愛着を持ったり、自分の住んでいる地域に誇りを持ったりする上で大切なものであると認識しており、今後、ふるさと学習等において、積極的に取り入れていき

たいと考えています。

また、現在、市、市政功労賞表彰や、文化表彰式、市民総合体育大会、スポーツ賞表彰式、成人式、仕事初め式などで歌われており、議員各位にもご臨席をいただきました市制10周年記念式典でも歌われたところです。

市制10周年記念式典の際には、初めての試みとして、紀見東中学校、紀見北中学校の音楽部と市民大学いきいき学園の生徒による合唱にてとり行い、従来からの市歌斉唱とは異なった趣となり、好評をいただいたところです。今後も市の行事の中で、多くの皆さんに歌っていただく機会を増やし、より市民の方々に親しんでいただけるように取り組んでいきたいと考えています。

○議長（中本正人君）4番 今城君、再質問ありますか。

4番 今城君。

○4番（今城敏仁君）教育長、ありがとうございます。

この質問を何でしたかといいますと、去年ですけれども、福祉センターで、NPOの何かの会議やったときに、一緒に同席になった高野口の方やと思うんですけれども、市民の方が、彼女は国体のいろんなボランティア活動とかを熱心にやられている方で、「今城さん、和歌山には和歌山県民歌、すばらしい曲があるのに、そしてまた、橋本市には橋本市歌があるのに、聞く機会が少ないんですよ」というふうなことをおっしゃっていたのが耳に残っていたんです。

この間、たまたま新聞を見ますと、県の県民生活課ですか、ここから校長会のほうですか、教育委員会のほうですか、に連絡して、県民歌のほうの普及を各学校で、小学校6年生までに歌えるように指導してほしいという、これは要望ですか、教育長、あったんですよ。その方の意見がずっと頭に残っていたの

で、今回、県民歌、そして、また後で市歌はやりましても、県民歌について、どこかでいっぺん質問したいなというふうに思っているんですけども、これから市当局としたら、市歌のほうの方がもう先に優先するんですけども、県民歌を、先ほど教育長もお答えいただいているんですけども、事あるごとに流すような、何かがあるときに流すようなことはお考えですか。

○議長（中本正人君）企画部長。

○企画部長（北山茂樹君）子どもさんに対しては教育委員会で取り組まれるということでございます。市当局といたしまして、今現在考えておりますのが、昼休み時間に県民歌及び市歌を庁内に流せないかということで、今、担当課と協議を進めています。準備が整えば、できるだけ早く、県民歌、それから、市歌もども、庁内のほうに流しまして、来庁される市民の方にも聞いていただきたいと、このように思っております。

それから、市歌につきましては、10周年の式典で紀見東中学校、紀見北中学校の生徒の皆さんに歌っていただきましたので、今回も紀見東、紀見北中学校の皆さんに市歌を歌っていただいて、それから、それをCD版にさせていただいて、それを流していくと。

それから、県民歌については、先日、県が発表したと思うんですけど、貴志川中学校のコーラス部か何かに歌っていただくというようなことも言われておりました、CD版にして、全県下全小学校に配付されるということを知っておりますので、県にお願いいたしまして、橋本市に1枚いただいて、それを市歌とともに昼休みに流していきたいと、かように現在、考えているところでございます。

○議長（中本正人君）4番 今城君。

○4番（今城敏仁君）ありがとうございます。

県民歌のほうですけれども、きょう朝、新聞

の和歌山版を見てみますと、同僚であった中西議員が県の一般質問で、県民歌について質問をしていただきました。中西議員の、新聞によりますと、あの詞は、我々、県の北の人間からはちょっと、南の海、その風景ばかりで、この歌を、詞を変えることはできないかと、それから、また第2の県民歌をつくることはできないかというふうに、知事のほうに質問されていたみたいですけども、私もあれは、先ほど教育長がおっしゃっていましたように、あれは1948年ですから昭和23年に、ある篤志家が、戦後の元気のないときに、和歌山県民歌をつくって、みんなの気持ちを奮い立たせようやないかという形でできたというふうにお聞きしてございます。

作曲は、山田耕筰さんで、作詞は一般に募集して、佐藤春夫さんが選者として採択したと。中西峰雄議員の言うように、ちょっと違和感はあるんですけども、南のことばかり言っていますので、でも、曲自身は、私も聞かれましたけども、かなり大阪フィルが演奏しまして、雄大な、なかなか情緒情感のある音楽になってございますので、詞がそんなんでしたら、旋律だけでも流せば、すごく気持ちのいい楽曲に私自身はなっておると思います。

そして、この近隣の町村の教育委員会なり役場に連絡して調べたんですけども、九度山町は、町民歌は当市と同じように何か行事があるときに流している。かつらぎ町もそのように聞いてございます。ただ、高野町の場合は、町歌は、先ほど企画部長からご返答がございましたように、防災無線等で必ず昼の時間に毎日流しておるということでございます。そして、県民歌は火曜日と木曜日に流しておるということでございます。

それもこれも、県民歌というのは著作権があったようでございまして、2009年にも、このような県のほうからの指導はあったらしい

んですけども、著作権等々でできなかつた。去年2015年12月31日に著作権が切れたので、こうやって今回は、県民運動として、CD化して、また、カラオケでも歌えるようにというふうな形で普及させたい。これは、知事のたつてのお願いというふうなニュアンスでお答えいただきました。

ただ、じきに僕は情緒的な質問をするんですけども、やっぱり大事なのは、我々、大きく言うたら、大宇宙の銀河系の地球の、それこそ、東アジアの日本という国、また和歌山県橋本市、そこにおりますので、在籍していますので、ここが自分らのベースであるということ意識するにも、そういうふうな歌を覚えるといいますか、それを聞く機会が増えれば、やっぱり郷土愛につながってもこよいと思えますので、ぜひ、この辺のところで、県民歌並びに、先ほど企画部長のほうからそのように進んでいくよというふうなお話をいただきましたので、ぜひ進めていただきたいというふうに思います。

それから、市歌でございますけれども、これ、調べてみますと、昭和30年の旧橋本市の合併、その後、10周年、昭和40年ですか、このときに市歌が制定されてございます。今回、橋本市も高野口町と合併して10周年ということでございますので、10年の間、我々はもともと高野口町なんですけども、いろいろ感情的ないきさつもございましてけれども、10周年をけじめとして、市長にお伺いしたいと思うんですけども、新しい市歌をつくるというふうなお考えはございませんか。

○議長（中本正人君）市長。

〔市長（平木哲朗君）登壇〕

○市長（平木哲朗君）今城議員の質問にお答えをします。

突然の申し出で、つくり変えるということについては全く現在は考えておりません。そ



うというような市民の皆さんからの要望もお聞きした上で、市歌もある程度普及をして、変えたほうがいいんと違うかというふうな声をお聞きしたら考えてみたいなと思っています。最近、大橋本というのがよく新聞に載りますので、ちょうど大橋本という歌詞もありますから、その中で、これから考えていけばいいのかなと。そういう機運が盛り上がってくれば、考えてまいりたいと思います。

○議長（中本正人君）4番 今城君。

○4番（今城敏仁君）急にすいません。今回というか、去年の国体においてでも、我々高野口の在住されている、ウインズの平阪君が、「明日へと」というふうな作曲をしていただいて、国体の歌、とにかくあの歌詞もなかなかいい歌詞で、覚えやすいメロディーですので、10周年のときに、みんなで最後に歌ったときも盛り上がったんですけども、高野口には、平阪君もいらっしゃいますし、また、高野口町出身で、あれはロサンゼルスオリンピックのときのシンクロの曲を書かれた、今東京在住の車川さんですか。彼女は、オペラ「石童丸ものがたり」のときも、こちらのほうへ来てくれて、いろいろご指導をいただいておりますけども。

そしてまた、橋本市には、そういうふうな音楽に関係している方もたくさんいらっしゃいますので、また、そういう方々のご意見も聞いて、今の市歌は僕も3回しか生まれて聞いたことがなかったんですけども、その当時の、やはりその人たちの気持ちが、その詞であり楽曲につながっておると思うんですけども、今ここへ来て、それこそ、めざすところは、先ほど壇上でも言いましたように、10周年で10年たった彼らの思いですね。環境に優しい、安心安全なまち、そして、We l c o

m e t o、おもてなし、思いやりのある心のある、笑顔あふれる橋本市と、そういうふうなところを詞の中に入れて、新しい橋本市歌をつくってもらえたらなど。

それと、やっぱり高野口町と合併して、高野口町の方々にも歌っていただけるような歌ができれば、また、それこそ、チーム橋本、気持ちが一つになって、この地域のために、みんなが、よし、それやったら頑張ろうやないかというふうな元気の出るような市歌をつくっていただけたらうれしいし、ありがたいと思います。

やはり、人間、我々、今でも小学校の校歌、中学校の校歌、いろいろ、高校、大学と覚えていますけども、やっぱりそれが何か事あるごとに思い出すわけでございます。市歌というのは、やはりそういうふうな歌でなかったらあかんと思いますので、ただ、式典、形式的に流すだけではなしに、いっぺん、市長、副市長、考えていただけたら、ありがたいと思います。

それから、先ほど企画部長のほうからおっしゃっていただきましたように、今の市歌の音というのは、あれ、レコードから多分とられておると思うんです。ええ歌であるのに、何かちょっと耳ざわりな点がございますので、早急にCDに、そういうふうな若い方々の生徒さんの歌声で、新しい市歌をつくっていただきたいというふうに思います。

すいません、お願いばかりで何なんですけども、以上で、一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（中本正人君）4番 今城君の一般質問は終わりました。

この際、3時30分まで休憩いたします。

（午後3時17分 休憩）